



### 低線量放射線が抗酸化物質に与える影響について

電力中央研究所の山岡聖典教授は、0.2シーベルト、4.0シーベルトの放射線を照射し、SOD（スーパーオキシドディスムターゼ）GPx（グルタチオンペルオキシターゼ）の量を調べた。その結果、0.2シーベルトの放射線を照射したラットの血液に含まれるSOD、GPxを、放射線照射4時間後に血液を採取して調べたら、SOD、GPx共に50%増加していた。

一般に、活性酸素は細胞を損傷（酸化）し、病気・老化の原因になると言われている。それ故、病気・老化を防ぐためにはSODやGPxなどの活性酸素の酸化を抑制する抗酸化酵素が必要である。この実験結果から、SOD、GPxなどの抗酸化酵素を生成する低線量放射線には、病気・老化を防ぐ作用があると言える。